

第23号 平成23年4月1日 発行
(偶数月発行/年6回)

七色花

【発行者】
中国・四国中国帰国者支援・交流センター
社会福祉法人 広島県社会福祉協議会
〒732-0816 広島市南区比治山本町12-2
TEL 082-250-0210
FAX 082-254-2464
E-mail chushikoku-center@festa.ocn.ne.jp

廿日市市異文化交流会 日中料理作り

2月1日(火) 広島県廿日市市地御前公民館で、男性料理グループと交流会を開き、地元名産のカキを使ったフライや水餃子と一緒に作りました。歌や手品、ヤンガ舞踊の発表を見ながらできあがった料理を食べた後、節分の豆まきをしてお開きとなりました。この交流会は今年で3回目。顔見知りも増え、お互い協力しながらの楽しい交流会となりました。



就職講座



2月16日(水) 中国帰国者支援・交流センターで、帰国者の就職支援の一環として、センターを利用している30~40代の2世を対象に就職講座を行いました。まず広島公共職業安定所の外国人労働者相談窓口の中国語通訳が、資格取得の重要性について講演し、その後、実際に資格を取得してキャリアアップした2世と3世が体験談を語りました。参加者の大半は帰国後15年以上で、現在も仕事を持っている人が多かったのですが、更なるキャリアアップに向けて、具体的な目標を見いだす良いきっかけとなりました。

高知県介護相談説明会

2月19日(土) 高知県の帰国者を対象に介護制度に関する相談説明会を開きました。高知県庁の県民向け出前講座を利用し、福祉課の職員に介護保険制度や在宅介護などについて、高知県の実状などを交えながら、分かりやすく説明してもらいました。参加者は1世がほとんどで、メモを取りながら真剣に聞いていました。「備えあれば憂いなし」しっかり備え、安心して老後をむかえましょう。



福山市交流活動教室



2月21日(月) 広島県福山市で、駅家地区の帰国者を中心に切り絵の講座を開きました。同地区は福山市中心部から距離があり、これまでセンターが市内中心部で行う活動には参加できませんでした。今回は同地域で活動する中国帰国者を支える会の協力もあり、駅家にお住まいの帰国者の皆さんと交流することができました。講師は広島市内で活躍する帰国者1世の切り絵講師、岩井梅子さん。作品は2頭のパンダの切り絵でした。ちょうどこの日、中国から2頭のパンダが来日。思い出深い作品になりました。

広島県社会見学交流会

3月6日(日) センターの書道クラスの受講生たちを中心とした帰国者が広島県安芸郡熊野町にある筆の里工房を見学しました。筆の原料は中国から来ているものが多く、帰国者からは「日中友好の象徴ですね」との声も聞かれました。館内見学後は、伝統工芸士の指導のもと、筆作り体験をしました。帰国者はつたない日本語ながら、分からないところを一生懸命質問し、工芸士の方たちもそれに丁寧に応じてくれました。午後からは、呉市の大和ミュージアムを見学し、「優れた技術も使い方を誤ると悲惨な結果を招く」という教訓を得ました。

次の週、書道教室では早速自作の筆で練習する姿が見られました。中国の材料と日本の技術の結晶である筆で、帰国者が作品を制作する、まさに日中友好の教室となりました。



地域多文化共生研修会

3月13日(日) 中国帰国者支援・交流センターで、地域多文化共生研修会を行いました。午前中は浜松国際交流協会のチーフコーディネーター堀永乃さんが、浜松における多文化共生への取り組み事例を紹介。午後からはセンター職員が中国帰国者を取り巻く現状や課題について述べた後、グループに分かれて、堀さんの進行のもと、事例検討会を行いました。参加者はこれまで帰国者支援に関わってきた人に限らず、地域のボランティア、小学校教師、日本語教師、行政職員、社会福祉協議会職員など幅広く、帰国者2世であるセンター職員も加わって、様々な視点から、誰もが住みよい社会環境づくりについて活発に話し合いました。参加者のアイデアや連携を大事にしながら、センターも今後の支援を行っていききたいと思います。



学習発表会



3月14日(月) 中国帰国者支援・交流センターで学習発表会を行いました。11日に起こった大震災の犠牲者に黙祷を捧げたあと、このような会ができることに感謝して、開会式に移りました。この発表会は今年で5回目。今回は、岡山県の帰国者を招待し、センターの開講講座の体験をしてもらったり、作品の展示や、歌、太極拳、二胡の発表を見てもらったりしました。体験会では、広島の帰国者が岡山の帰国者に教える場面も見られ、なごやかな雰囲気の中交流を深めました。

広島県健康増進交流会

3月23日(水) 広島県の帰国者を対象に健康増進交流会としてボウリング大会を開きました。今年の最高齢参加者は78歳!老若男女関わらず楽しめるボウリングで大きな歓声をあげながら、楽しいひと時を過ごしました。また来年も参加できるように、健康管理に気をつけて1年を過ごしましょう。



東日本大震災

3月11日(金) 東北地方を中心とした広い地域が巨大地震とそれに伴う大津波に襲われ、大きな被害が出ました。仙台にある東北中国帰国者支援・交流センターも被災し、授業が中止されています。中四国センターの帰国者も毎日テレビで放送される悲惨な状況に心をいため、自発的に募金活動を始めました。学習発表会では「日本の人たちに恩返しを」という1世の中山さんの呼びかけに広島・岡山の多くの帰国者が応じました。

被災者の中には中国帰国者もいます。一日も早い復興を願ってやみません。

※学習発表会等で集められた義援金は中国新聞社会事業団を通じて被災地に贈られました。

4月・5月の予定

4月18日 広島県防災相談説明会〔広島県〕

5月14日 高知県社会見学会〔高知県〕

5月28日 島根県企業見学〔島根県〕

投稿募集

みなさんからの投稿を募集しています。内容は日々の生活の出来事や中国での思い出、わたしこんな特技がありま〜す、など何でもかまいません。あなたも「七色花」に記事を載せてみませんか?原稿は400字程度で、持参、郵送、FAX、メールでお願いします。

みなさまからの記事をお待ちしています。

編集後記

今年は例年にない厳冬で、雪の災害も多く、日本中が春の訪れを首を長くして待っていました。そんな矢先に東日本を未曾有の大災害が襲い、春は益々遠くなりました。「津波が来ます、避難してください」というアナウンスが聞きとれず、被害に遭われた帰国者もいらっしゃるのではないかと、心配で心が痛みます。

不安な気持ちで新年度を迎えることになりましたが、23年度も中四国センターは精力的に事業を行っていききたいと思います。中四国各地の帰国者のみなさんとお会いできるのを楽しみにしています。(田中)

第23号

平成 23 年 4 月 1 日 发行
(双月发行/年 6 回)

七色花

【发行者】

中国·四国中国归国者支援·交流中心

社会福祉法人 广岛县社会福祉协议会
〒732-0816 广岛市南区比治山本町 12-2
TEL 082-250-0210
FAX 082-254-2464
E-mail chushikoku-center@festa.ocn.ne.jp

廿日市市异文化交流会 日中料理

2月1日(周二)在广岛县廿日市市地御前公民馆,与男性烹饪俱乐部成员一起举办了交流会。大家一起使用当地产的牡蛎做了油炸牡蛎和水饺。会上大家边欣赏歌唱、魔术和秧歌等表演,边品尝着共同做的料理。之后,进行了节分的撒豆仪式。象这样的交流会今年已经是第3次了,所以熟悉的面孔也在年年增加。通过大家的齐心协力圆满的完成了这次交流会



就职讲座



2月16日(周三)在中国归国者支援·交流中心,以在中心学习的30~40岁的归国者2代为对象,做为归国者就职支援的一环,进行了就职讲座。会上首先由广岛公共职业安定所的外国人劳动者咨询窗口的中国语翻译,就取得资格的重要性进行了讲演,之后,由两位实际取得能力提升资格的归国者2代和3代为大家介绍了自己的实际经验。与会者中大多数来日已经超过15年,所以说基本上每个人都有自己的固定工作,但是为了今后能够更上一层楼,让大家有了更加具体的奋斗目标。

高知县介护咨询说明会

2月19日(周六)以高知县归国者为对象进行了有关介护保险制度的咨询说明会。这次说明会申请利用了高知县所开办的上门讲座,由县的社会福祉课的工作人员在介绍高知县实际现状的同时,浅显易懂的向大家说明了介护保险制度和居家护理的内容等。当天的参加者中绝大多数为归国者1代,每个人边认真的听着讲解边做着笔记。正所谓「有备无患」才能老后无忧。



福山市交流活动教室



2月21日(周一)在广岛县福山市,以住在驿家地区的归国者为中心开办了剪纸讲座。以往中心在福山市举办的活动基本上是以市中心为主,驿家地区虽然地处福山,但是距离市中心还有一定距离,所以不太方便。这次在当地从事支援活动的归国者扶助会的大力协助下,使我们与居住在驿家地区的归国者得以交流。本次讲座的剪纸老师是活跃于广岛市内的归国者1代岩井梅子女士。这次的剪纸作品为2只熊猫,讲座的当日时值中国的2只熊猫来日。希望借着这幅作品能给大家留下深刻的印象。

广岛县社会观摩交流会

3月6日(周日)以中心书法教室的学员为主,来到广岛县安芸郡熊野町的毛笔之乡进行了参观学习。毛笔的原材料基本上都来自中国,所以参加者中有人提到「这就是日中友好的象征」。参观完馆内后,在毛笔制做专家「传统工艺士」的指导下,每个人进行了毛笔制做体验。在遇到难懂之处,大家用不是十分流畅的日语拼命的向老师提问,老师也不厌其烦为大家仔细的讲解。下午,去了吴市的大和战舰博物馆参观。大家的观后感是「精湛的技术如果用途不对,就会导致悲惨的结局」。

在接下来的一周,大家就迫不及待的拿出自己制做的毛笔进行了练习。这中国原材料和日本技术的结晶,并且是归国者亲手制做的毛笔,使我们的教室成为了日中友好教室。



地区多文化共生研修会

3月13日(周日)在中国归国者支援·交流中心召开了地区多文化共生研修会。上午由浜松国际交流协会的总策划堀永乃女士,介绍了在浜松展开的有关多文化共生的工作事例。下午由中心工作人员介绍了中国归国者的实际现状和课题后,在堀女士的助成下,分组进行了事例探讨会。与会者不仅有归国者支援人员,还有地区志愿人士、小学教师、日语教师、行政工作人员和社会福祉协议会职员等方方面面的人士,再加上本身是归国者2代的中心工作人员,大家在各种立场和观点下,就如何创造适于居住的社会环境而积极踊跃展开了讨论。在重视每位参加者的创意和协同下,中心会为今后的工作不断再接再厉。



学习发表会



3月14日(周一)在中国归国者支援·交流中心举办了学习发表会。首先全体参加者为11日的大地震的牺牲者进行了默哀,并感谢我们大家能够有幸在此召开这样的会议后开始了开会典礼。这已经是中心第5次举办学习发表会。这次还专程邀请了冈山县的归国者,体验了中心开设的兴趣讲座,观看了展示的各种作品以及学员发表的日语歌谣、太极拳、二胡。在体验会上,时而还看到广岛归国者教冈山归国者的场景,整个会场始终充满着友好的气氛。

广岛县促进健康交流会

3月23日(周三)以广岛县归国者为对象进行了促进健康为目的的保龄球大会。今年的参加者中最年长为78岁!在这不分男女老幼的保龄球比赛中,大家在一片欢笑中,一起欢度了这段快乐时光。为了明年能更好的参加中心的活动,请大家一定要注意健康管理。



东日本大地震

3月11日(周五)以日本东北地区为中心,在广域范围发生了大地震并伴随发生大型海啸,受灾情况甚为严重。位于仙台的东北中国归国者支援·交流中心由于震灾,不得不暂时停课。中四国中心的归国者学员,每天通过电视看到灾区的悲惨境况,深感痛心,自发的组织了募捐活动。在中心的学习发表会上,通过归国者1代中山先生「我们应该向日本人民报恩」的号召下,广岛·冈山的多数归国者纷纷响应了募捐。

在受灾者中也有我们中国归国者。在此,我们衷心的祈祷灾区能够早日复兴。

※在学习发表会上募捐到的捐款通过中国新闻社会事业团已经捐赠到了受灾地。

4月·5月预定

4月18日 广岛县防灾咨询说明会〔广岛县〕

5月14日 高知县社会观摩会〔高知县〕

5月28日 岛根县企业参观学习〔岛根县〕

征集投稿

向大家征集稿件。内容不限,可以是日常生活琐事,也可以是追忆往昔,或者是介绍专项所长。您不希望把自己的文章登载在「七色花」上吗?原稿的字数限400字以内,投稿方式可以是直接送到中心,或者是邮寄、传真均可。

期盼大家积极踊跃的投稿!

编辑后记

今年的冬季比往年更为严峻,四处雪灾多发。在这翘首盼望春季到来之际,东日本又发生了前所未有的大型灾害,令人深感春天遥遥无期。每当想到,当「海啸袭来,请马上进行避难」的避难警报播放时,是否会有因听不懂日语而受灾的归国者就会心痛不已。

怀着忐忑不安的心情又迎来了新的年度,在23年度中四国中心将会全力以赴搞好各项事业。为能与中四国各地区的归国者再见面满怀期待。(田中)